

(ちの地区) 消防団について

意見要旨	説明・回答要旨
コロナを経て、今まで精力的だった消防団の活動が大きく変わってしまった。 様々な活動が縮小されていく中で、我々先輩世代が、若者のために魅力的な活動を引き継ぎながら、自主的に活動したくなるような雰囲気づくりを区全体で作っていくことが大切だと感じている。 また、消防団は、将来を担っていく若者が地域との関わりを通じてまちづくりへの興味を持ってもらう第一歩となるので、地域と行政とで協力しながら、消防団を運営していければと思う。	(市長) おっしゃる通り、消防団は、地域の様々な活動の入口の場となっている。 強制的に入団させることはできないが、最近の若者は、納得すると入団してくれる方が増えてきているので、環境づくりが重要になってくると思う。市としても、しっかりとサポートしていきたい。

(ちの地区) 行政の取組について

意見要旨	説明・回答要旨
企業は、事業やプロジェクトを進めていく際には、PDCA サイクルを意識していくおり、これは行政も同じだと思う。 人口の減少については、ある程度予想ができていの中で、しっかりとした検証に基づいた対応策を講じていくことができていれば、防げたのではないかな。 市長の説明で、様々なことに取り組まれているようだが、検証がしっかりとされていて、これから始まる事業はその検証を基にして計画されたものなのか。	(市長) 公民館活動と市民活動の一本化の検討をはじめとして、庁内で検証し議論をしながら事業を進めている。 ただ、法的な制約もあるので、慎重に進めているところ。 人口減少については、おっしゃる通りで、20 年前の諏訪 6 市町村の合併は、今後減少していく人口を見据えての動きでもあったが、合併には至らなかった。本来であれば、その後に、諏訪 6 市町村で施設等の相互補完をしてこなければいけなかったが、ほとんど進める事が出来ずにここまで来てしまった。 国も 30 年先の人口推移は予想できていたはずだが、有効な手が打てていなかった。 これらの反省を受けて、冒頭の説明でもあったような諏訪 6 市町村の相互補完や、国、

	県との水平補完などの話し合いを進めている。 (地域創生政策監) 国は 40 年前から、人口減少の推計を把握していたが、厳しい現実に向き合うことを避けて、現在まで来てしまっている。 人口減少の問題は、地方自治体のみで解決することは不可能なので、国に対して、声を上げていく必要があると感じている。
--	--

(ちの地区) MPA 取得者について

意見要旨	説明・回答要旨
神奈川県真鶴町は「昔から変わらないけど実は最先端」というキャッチコピーを打ち出しており、MPA（公共経営修士）を取得している町長が経営目線で市政を運営している。昔からの良さを残しながら発展してきている経過は、茅野市と重なる部分がある。今後、重要度が増していくことが予想される MPA の取得者は、市の関係者にいるのだろうか。	(市長) MPA 取得者が、市関係者にいるのかは、把握していないが、真鶴町のキャッチコピーについては、茅野市でも同じような魅力があると思う。 例えば、茅野市では、観光地の土地は財産区が持っている事が多く、財産区が土地を管理し続けることで、茅野市の良さを残したまま開発が進められてきた。 (地域創生政策監) 市内には 48 の財産区があり、それぞれ議会を持っていて、議会の承認をもって、別荘地やゴルフ場の開発などを許可してきた。日本の代表的な観光地でも、それぞれ個人の土地を買収、開発している場所では、景観を損ねるような施設ができてしまっている所もあるが、茅野市では抑制されてきた。ただ、財産区民の皆さんも高齢化が進んでいるので、区・自治会に入られている方が財産区の運営に携わることができるかどうかなどを現在検証している。 アメリカ合衆国には、オレゴン州ポートランドのように住民がまちづくりに積極的に参加することで、景観の保護と都市開発を

	高いレベルで実現している例もある。 今後、財産区や区・自治会の皆さんと、行政が上手くバランスを取って財産区を運営することができれば、茅野市はさらに魅力的なまちになると思う。
--	--

(ちの地区) 移住促進について

意見要旨	説明・回答要旨
私が茅野市を移住先に選んだ理由は、茅野市民が、子どもや、老人、移住者に親切な、素晴らしいシティズンシップ（市民性）を持っている事だった。 私以外にも、このシティズンシップや住環境に共感して、移住してくれる方はいると思うので、移住希望者が、先輩移住者の声を聞くことができる体制を強化してほしい。	(移住交流推進室長) 「楽園信州ちの」では先輩移住者の話を聞ける市内の飲食店等を「楽ちのステーション」として HP 等で紹介している。また、移住交流推進室で把握している移住者の皆さんの情報を活用して、様々なイベントでお話をさせていただいている。

(ちの地区) 人口減少社会について

意見要旨	説明・回答要旨
永明小学校は、1 学年 4 クラスが当たり前だと思っていたが、そうではない学年もあるようで、子どもの人数が減っていると実感している。また、子どもの人数の減少に伴って、親世代の人口も減っていて、これは、区・自治会や学校での役職の担い手が減っているということになる。そうになると区・自治会の運営も困難になってくる可能性があり、これは、ちの地区だけではなく、他地区でも問題となっているので、茅野市全体を見渡すなかで、課題の解決に取り組めたらと思う。	(市長) 貴重なご意見に感謝する。